

協議会だより 第34号 (2012年1月1日)

発行 越谷流通団地運営協議会

発行責任者 山崎由三郎

編集責任者 甲斐秀治

事務局 越谷市流通団地1丁目1番20号 協同組合 越谷卸センター

TEL 048-989-4111

新年のご挨拶

団地の力と絆で良い年に

新春を迎え、越谷流通団地運営協議会会員の皆様には、平成24年の新春を健やかにお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、旧年中に賜りました当運営協議会に対するひとかたならぬご支援並びにご協力を改めて厚く御礼を申し上げます。本年も倍旧のお引き立てを宜しくお願い申し上げます。



越谷流通団地運営協議会会長 山崎 由三郎

さて、昨年は、東日本大震災という未曾有の大災害に伴う津波被害と原発問題が、今もって解決されず大変な一年でした。それら災害の被害状況を報道するテレビや新聞各紙は、互いに助け合う姿を多数写し出し、私も感激すると同時に世界中で称賛を得る結果となり、日本人、或いは人間の持つ素晴らしいを再確認することとなりました。我々運営協議会も、同様に会員の皆様のご協力のもと、強固な結び付きをもって本年の活動をお願いしたいと存じます。

我々を取り巻く経済環境は、世界を震撼させた2008年のリーマンショック以来、昨年の欧州通貨危機や、継続する円高問題、そして脱原発からのエネルギー問題が、企業活動に大きな影響をもたらしており、これに震災復興のための補正予算や消費税増税を目前に控え、当年も厳しい舵取りを余儀なくされそうですが、ことしの干支は辰(龍)であり、龍の如く吹き荒れる環境をものともせずに空高く飛びまわれるよう会員企業の皆様のご活躍をご祈念申し上げ念頭のご挨拶に代えさせていただきたいと存じます。

平成24年新春講演会と新年会開催のお知らせ

越谷流通団地運営協議会の新春講演会と会員の皆さんとの新年顔合わせ・情報交流のための新年会を下記のとおり開催します。多数の皆様のご出席をよろしくお願いします。

今回の講演会の講師は、TBS時代はスポーツアナウンサー、ニュースアナウンサー、ラジオDJなどとして活躍。ロサンゼルス・シドニーオリンピックの中継担当、プロ野球、マラソン、ボクシング等の名実況・名調子をのこす。幅広いキャリアを持ち、興味ある面白いお話を聞けるでしょう。

団地内の皆様以外に本社の方々にも声をかけていただき、多くの皆様のご出席をお願いします。

一 開 催 案 内 一

日 時： 平成24年2月2日（木） 午後5時～8時

場 所： 越谷コミュニティセンター4階「櫻の間・桐の間」
越谷市南越谷1-2876-1 ☎ 048-985-1115

会 費： 1人 5,000円（当日ご用意ください）

講演会： 「一流人から学んだもの～プロはミスをしない！～」

講 師： 元TBSアナウンサー 石川顯（いしかわあきら）氏



部会報告

ゴミ処理、下水道処理のリサイクル施設を視察研修

本年度の協議会役員・部会委員の研修会は、11月29日の午後に当団地とも関わりの深い越谷地区のゴミ処理と下水道処理施設を視察しました。

先ず、近隣5市1町（越谷市・草加市・八潮市・三郷市・吉川市・松伏町）で構成されている東埼玉資源環境組合による広域のゴミ・し尿処理施設を視察した。越谷市増林3丁目に概観はホーと見間違えるような建物がゴミ処理施設である。ここで人口88万人から排出される様々なゴミが毎日処理されている。200t/日の処理能力を持つ炉が4基あり、毎日800tのゴミを処理している。施設は環境に配慮された近代的なものでとてもゴミ処理施設とは思えない。また、クリーンな排ガスで匂いもなく、清潔感のある工場という雰囲気であった。処理の過程で出る灰を土木資材等に有効利用する様々な工夫がなされている。処理施設で発生する熱エネルギーを有効利用して発電・余熱利用が行われている。隣接地にある市民のため温水プールや公衆浴場はこのためである。し尿処理施設は八潮市にある第二工場で中間処理の後、公共下水道に放流される。この公共下水道の中川流域の終末処理場が財團埼玉県下水道公社の中川循環センターで三郷市番匠免にある。今回はこも視察した。家庭や工場等で出された汚水を循環センターに集めて、下水処理場で沈殿させ、微生物を利用してきれいにして、最後に消毒して川に放流している。下水処理の途中発生する汚泥焼却灰は、セメント原料などの資源としてここでも有効利用されている。

今回の視察で、ごみも下水道も極めて効率的に処理されているが、各家庭や企業からのゴミ等の廃棄物をゼロには出来ないだろうが、少なくすることが重要だということが良く分かった研修であった。

注意しましょう

貨物自動車やトラック・重機のバッテリーが狙われている！

埼玉県警察は、自動車が盗まれるケースが増加していると警告している。なかでもその4割以上がトラックなどの貨物自動車で、昨年1~10月中の貨物自動車の盗難は637台で100台以上増加しているといふ。

また、トラックや重機のバッテリーの窃盗事件も県内の広い範囲で連続的に発生しており、昨年の同期間で325件と4.3倍も増加しているといふ。

貨物自動車の盗難対策として、警察署はつぎのような心得と実施を勧めている

- ①防犯設備の充実した駐車場を一駐車場には照明（センサーライト）や防犯カメラの設置を。また、駐車場の入口には乗用車等を止めて、出入口を封鎖するなどの工夫を。月極駐車場を利用する時は照明や防犯設備の充実した明るい駐車場を選ぶことを勧めています。
- ②盗難防止機器の活用を一バー式ハンドルロック、センサー式警戒装置、GPS追跡装置などの防犯グッズが市販されていますので、これららの機器を活用して盗難防止を効果高めましょう。
- ③車両・荷台は、カラッポに一貨物自動車の内外に電動工具などを積載してあると、車上狙いの被害に遭うことも。車内や荷台はいつもカラッポにしましょう。
- ④イモビライザを後付け一平成22年中の盗難被害のうちイモビライザを装着した車の割合は7%、泥棒はイモビライザのついた貨物車両を避ける傾向があるため必ずイモビライザを後付けて装着しましょう。

トラックや重機のバッテリーを守るために

貨物車や重機がある場所は、ほとんど防犯設備が無く、人気も少ないところが多く、バッテリーは意外に高値で売れるため狙われやすいので、注意をしてください。

- ①駐車場などの車両保管場所の防犯設備（防犯カメラ、センサーライト等）を強化する。
- ②防犯設備の整った駐車場等にトラックの駐車場を変更する。
- ③トラックのバッテリー搭載側をバッテリーが運べない程度の狭いスペースにする（壁側駐車、互い違いにして駐車）。
- ④バッテリーに会社名を記名したり、刻印したりする。
- ⑤不審者を見かけたら110番する。

交通事故防止に協力を！

盗難対策の他にも、越谷警察署では、交通事故が一向に減少しないことから、市内各事業者に対して、運転手の事故防止啓蒙を呼びかけております。